

営農ウィークリーNEWS

2023年産米の乾燥調製作業の最盛期を迎えました！

大原野事業センターと乙訓ライスセンターの2箇所の施設で産米の乾燥調製受託作業として籾の受け入れを行っており、10月上旬から、作付面積が最も多い晩生品種「ヒノヒカリ」の受け入れが始まりました。

今年は、梅雨の長雨と日照不足や品質に最も影響する登熟期が異常気象下の高温であったため、品質への影響が心配されていました。

早生、晩生品種ともに、高温による影響で白未熟粒やカメムシ類による斑点米の混入が多い状況です。2023年産米の乾燥調製受託作業は、800トンを見込んでいます。



乙訓ライスセンターでの乾燥調製作業の様子

—TAC information—

「京おくら」の生産者を



大募集 しています！

ぜひ、一緒に「京おくら」を盛り上げましょう！

京おくらを一緒に作りましょう！



JAでは、次年度へ向け、京おくら生産者を大募集しています。

okraは、栽培が比較的容易で、初期投資も少なく栽培初心者でも非常に取り組みやすい品目です。

栽培面積は2a程度でも十分出荷が可能です。

ぜひ、一緒に京おくらを盛り上げましょう！



2023年産米検査状況

2023年産米 検査成績 (2023年10/25現在)

2023年産米検査成績	検査数量 (30kg袋個)				等級比率 (%)		
	1等	2等	3等	計	1等	2等	3等
※2023年10月25日現在	276	2,889	2,438	5,603	4.93	41.56	43.51

(参考) 2022年産米検査成績	1等	2等	3等	計	1等	2等	3等
※2022年10月25日現在	511	4,229	1,230	5,970	8.56	70.84	20.60

2023年産米農産物検査は、9月14日の大原地域（契約外米・検査受検のみ）から始まり、**合計 5,603 袋/30kg**（10月25日現在）の検査を実施しました。

今年は、梅雨の長雨と日照不足や登熟期の異常気象による高温の影響で**白未熟粒**の混入が多く見受けられます。

また、等級を下げる大きな要因となっているのが、同じく高温の影響で、カメムシ類の被害による**斑点米の混入**や**未熟粒**によるものでした。

